

# 町田通勤寮だより

NO 50 2015年3月

## 東京都町田通勤寮

〒194-0045 東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042(739)0491

### 巻頭言

通勤寮満20年、「通勤寮だより」50号と「区切り」の数字が並びます。人それぞれに「区切りの時」があるのではないのでしょうか。私の一番の「区切り」はいつだったのかと、この原稿を書きながらふと考えています。

繰返しお知らせしていますように、平成28年4月からの民間移譲に向けて2月9日には東京都の選定委員会によるヒアリングが行われ、3月5日付で正式な運営事業者の決定通知書が届きました。(東京都のホームページ)に関して文書がアップされています。やっと一息つけるのかなというのが実感ですが、「いよいよ移譲に向けて実際の手続き等が始まるんだ。」という思いもあります。

また、一足先に「葛飾」と「大田」がこの4月から移譲されるため、「都型通勤寮実施要項」(案)が先日示されましたが、なかなか「実際の通勤寮の姿」は見えてきません。これからの1年間で皆さんのご意見も伺いながら、「新しい町田通勤寮」を創っていく準備を進めていきたいと考えています。

1月に福島へ帰省してきました。目に入る風景から「瓦礫」はずいぶんと少なくなってきたように見えました。堤防や住宅地の嵩上げ、住宅の復

旧、塩害農地の復旧作業等、ダンプカーは行き交い、一見すると「復旧」は進んでいるように見えました。が、「生活の復興」はなかなか進んでいないのが現実のようです。特に漁業は原発事故以降未だに操業ができず、再開のめども立っていないのが実情だそうです。

復路は、昨年9月に通行禁止が解除された帰還困難区域内の国道を走ってきました。ニュースで見たとおり、国道沿いから別れる道や家への入り口にはフェンスが立てられ、または警備員が立っていました。これまで見たこともない本場に異様な風景でした。「これで本場に復興が進んでいるといえるのか。」率直なそして複雑な思いです。

あの日から4回目の「3.11」を皆さんはどのように迎えますか。

(三階)

### 50号に寄せて

『町田通勤寮だより』が五十号になるといわれ、驚くやら感激するやら、第一号を出した身として得も言われぬ感慨を抱きます。第一号は平成十九年一月発行。私自身は同年八月に通勤寮からつるかわ学園に移ったため第四号までしか関わっていませんが、その後も二ヶ月に一回ある保護者会に合わせて発行するというノルマを果たし、平成二十七年三月が第五十号。忙しい業務の合間を縫って八年余にわたりコツコツと発行し続けてくれた通勤寮のスタッフに心よりその労をねぎらい感謝します。

これまで発行された『町田通勤寮だより』をみると、この『たより』はその時々町田通勤寮の姿を写した「生の歴史」になっているように感じられます。毎年、「事業計画」を立て「事業報告」を作成しますが、それが表に出る町田通勤寮の歴史となるものとすれば、「町田通勤寮だより」は、スナップ写真のようにその時々町田通勤寮の利用者(寮生)の様子

を写しとり、職員の思いや制度の動きにメスをいれた「リアルな町田通勤寮」を表現したのになっています。

制度としての「通勤寮」は、障害者自立支援法を経てなくなりました。しかし、就労と生活を一体的に支援し、ハンディのある人たちの「就労・自立」を支えるためには、「通勤寮」は必要不可欠な支援システムであり、東京都は、障害者総合支援法のもとでも独自にこの支援システムを継続します。一方、都立施設の民間移譲の動きの中で、町田通勤寮は平成二十八年度から民間移譲されます。民間移譲後の町田通勤寮は、これまでより運営条件が厳しくなる面がありますが、寮長以下職員のみなさんが一丸となつて、これまで培ってきた町田通勤寮らしさを更に発揮し、より多くの利用者の「就労・自立」を支援していく社会資源となるよう強く願っています。そして、この『町田通勤寮だより』が第百号を迎えるときを心より楽しみにしています。

第一号発行当時の法人の事業は、入所施設つるかわ学園と町田通勤寮、数カ所のグループホームでしたが、その後、事業が拡大し利用者定員も増えてきています。今後も法人各事業が、障害のある人たちの「社会参加と自立」を支援していく共通の方向性のもとで事業を運営し、各施設・事業所が緊密に連携・協力していけるよう期待しています。

(つるかわ学園 施設長 植村)

障害者支援施設つるかわ学園副施設長の丸山と申します。通勤寮だより50号を記念して、町田通勤寮寮長経験者として一筆欲しいという依頼がありましたので、拙い文章ですが書かせていただきます。

私が町田通勤寮の寮長を務めていたのは、平成19年8月1日から平成24年4月30日までの4年9カ月です。その間に、楽しかったこと苦しか

ったこと等々様々なことがあり、今でもはつきりと思い出せることばかりです。それらの記憶の中でもとりわけ強烈な印象として残っているのは、何と言っても平成23年3月11日の東日本大震災の時のことです。あの日は町田市社会福祉協議会で会議があり、その会議が終了したばかりの時にあの地震がやってきました。会議室のテーブルの下に隠れながら外を見ると、電信柱が波打ちながら揺れているのが見えます。瞬間に蛍光灯の電気も消えました。地震の最初の揺れが収まった時に、職場と家族に携帯で電話をかけますが全くつながりません(暫くして家族からメールが届き、東北の方が大変だということを知りました)。職場に帰ろうと町田駅に行ってみると、電車が止まった状態です。職場には相変わらず電話が繋がらない状態なので、帰らない事には職場や寮生がどうなっているのかわりやうがなく、45分かけての徒歩での帰寮となりました。途中の信号機もダウンしている状態でしたが、通勤寮は幸いにも電気がついていて状態で、テレビを通じてあの大津波が押し寄せるところを見ました。寮生たちやGH利用者の職場とも連絡がつかないところが多く、本当に生きた心地がしない状態というのはあのようなことを言うのでしよう。ポツリポツリと寮生たちが帰寮し、最後の寮生・GH利用者が帰ってきたのが翌日の午前4時頃でした。当然のことながら完全な安堵とは言えませんでした。ひとまずほっとしたことを覚えていきます。東北は地震・津波・原発事故とそれからも苦しんでいます。町田通勤寮に関しては、徐々に普段の姿を取り戻していきました。

こんな記憶が私の「通勤寮だより」50号に寄せての一文になります。これから、町田通勤寮をよろしく願います。

(つるかわ学園 副施設長 丸山)

50号！ついにここまでできたかと思えます。年6回発行なので8年と少し…2代目編集長を当時の植村寮長から引き継いだ当初、パソコンの使い方もままならず写真をハサミで切って糊で貼ってとすごくアナログな作り方をしていました。だから当時の物で写真があるのは発行分のみです。

私の代から段落が2段分けになっています。文章としては3段分けが読みやすいのですが、2段分けは写真が大きいというメリットがあります。行事をくまなく網羅しているので、後年、資料として活用した事もありました。平成18年にソフトボール部が関東大会初の準優勝に輝いた時に植村寮長の指示で号外を発行しました。当時は参加チームも多く強豪ぞろい、それまで初戦敗退ばかりだっただけに「快拳」として配布したのが思い出深いです。思えば号外はあの時だけだったかと思えます。あと10号発行すると創刊10周年を迎えます。その時が楽しみです。

(山内)

記念すべき50号の発行に携わることを大変光栄に感じております。今現在、4代目編集長の岩崎です。拙い文章ですが、発行50号に寄せて私もその想いを残したいと思えます。

私が編集長に就任したのは平成25年の39号からとなり、前任の金指支援員から引き継ぎました。植村施設長も書いている通り、普段の業務と並行しながら通勤寮便りを作成するのは時間を要する作業です。例えるならコンビニのレジで携帯電話の支払いと宅急便の発送手続きとライブのチケットを発行するお客さんが列を作って待っており、それに対応する店員といったところでしょうか。まあ、とにかく編集長は多忙です。

なんとか保護者会当日にグラを校正者(寮長)に最終チェックしてもらい、全体会が始まる5分前に手分けして製本することもしばしば…。

もちろん、合間を縫って記事を執筆してくれるライター(支援員)の協力がなければ、通勤寮便りは完成しません。

今後、歴史ある通勤寮便りの発行を鋭意継続し、読者の方々にも少しでも通勤寮の生活を知って頂ければと思います。これからも通勤寮便りをよろしく願います。

(岩崎)

### 就労講座

今回のテーマは「仕事の大切さを考え、就業規則について知ろう」とし、

1.就業規則、2.勤怠について、3.労災について、4.最低賃金について、を資料に基づき職員側から話をしました。障がいがあり、特別支援学校に通っていた人はそのまま実習を経て就労に就くケースが多いですが、一般の人は高校卒業後は大学に進学する人も多く、社会人になるまで数年間の助走期間がありますが、通勤寮を利用する方は特別支援学校や施設から直ぐに就労するケースが多く、まだ若く「もつと遊びたい！」と思いつつも「職員や先生に、仕事に行けと言われるから行く」と仕方なく毎日仕事に行く人も多いのではないのでしょうか。通勤寮2年目、3年目の人は通勤寮職員からの叱咤激励や自身の苦労や経験を経て、就労意欲が上向いている人も多いと思いますが、未だ1年目の人は就労意識も芽生えておらず、働く事に関しての意識が低い人もいるかと思えます(例外も勿論あると思えます)。そうした人達に向けて、改めて上記の就業規則、勤怠等を学んでもらえればと、通勤寮では以前からこうした講座を設けています。

1の就業規則では基本的な、それぞれの会社に就業規則(会社のルール)がある事を実際の就業規則を見せて説明しました。最初は仕事を覚える事がメインとなり、中々「会社に雇われている」「会社の一員」と自覚が芽

生えるまでは一定の期間が必要だと思えますが、改めて講座で話をする  
皆さん「そっかー、会社から給料貰ってるんだからな…」と受け止めてい  
る様子が見受けられました。

2の勤怠では始末書を配布し、無断欠勤や遅刻、顧客や会社の人への暴  
言が会社に迷惑を掛ける。自身の評価にも繋がる話だと伝え、実際に始末  
書として用意した以下の分を利用者さんに読み上げて貰いました。「お客  
様に対して大変ご無礼な態度、言動を取ってしまった事を深くお詫びし、  
会社、及びお客様に対して多大なる御迷惑をお掛けしました事、誠に申し  
訳なく、深く反省致しております。今後、二度とこのような事がないよう  
誓います。」…と、重たい文言が並びますが、かなり利用者さんには効き  
目があつたようで、静まり返って聴いていた事を覚えています。職員から  
はこのような失礼な行動や言動を繰り返し、始末書を何度も書くような事  
態になれば退職勧告される事もあると一般論として伝えました。

3の労災では、会社から労災について、その都度説明を受ける事も少な  
いと思われませんが、申告した通勤経路や通勤手段を守っていないと労災が  
適用されない事などを伝えました。通勤寮でも「近いから。楽だから」と  
自分で勝手にルートを変えてしまう人も居ますが「そうなんだー」と感心  
している声も上がっていました。

4の最賃に関しては利用者からも「何年も勤めているのに賃金が上がら  
ない！」と、よく不満を漏らす人もいますが、資料に基づき産業別に一定  
の最低賃金が設定されている事や、ベースアップには会社の方針等が反映  
されている事を伝えました。

最後にアンケートを記入してもらいました。結果は「よく分かった」「勉  
強になった」が15名。「難しかった。漢字がうまく読めなかったけど、少  
し分かった」1名。「よく分かった。もっと詳しくやって欲しかった」1

名。と良い感想を書いてくれた人が多かったです。毎日仕事に行く事は勿  
論大切ですが、それぞれが高い意識を持って職場に向かう事は利用者のみ  
ならず、我々職員も同様かと思われれます。私達も改めて考えさせられる講  
座となりました。



勉強になったとの意見も多数！



是非、仕事や生活に役立てて下さい

(青木)

## 新年会

一月二十五日は新年会。今年は町田市立総合体育館の福祉レストラン  
「フレンズ」をお借りし、新成人を迎えるメンバーをお祝いしました。

十二時過ぎ、スーツ姿の利用者さんと保護者の方々が集まり、寮長、地  
域生活援助センター長の挨拶の後、自治会長が乾杯の発声をし、新年会が  
始まりました。サンドイッチ、揚げ物、鶏から揚げ等若者が好みそうなメ  
ニューが卓上に所狭しと並びます。自分の目の前に置かれた山盛りのから  
揚げを見て「これ全部食べていいですか？」と目を輝かせる利用者も。分  
け合って食べるのもっと美味しいですよ。

お腹も膨れた頃、記念品の贈呈と成人の抱負の発表がありました。女性へはパールの首飾り、男性へは黒革ベルトが後輩のプレゼントから贈呈されました。その後、新成人一人一人が将来の抱負を述べてくれました。その後はお楽しみビンゴゲーム。定番「ヒゲダンスのテーマ」が流れる中、次々と番号が発表され、「ビンゴー」の声がちらほらと。「三列もリーチになっているのに、何でビンゴにならないんだ！」と悔しがる利用者さんも。普段のんびりしている利用者さんが一喜一憂している姿は微笑ましく映ります。ちなみに一等は千円のクオカード。通勤寮にしては豪華ですね。ビンゴが終わると、保護者の代表の方から閉会のご挨拶と謝辞を賜り、新年会はお開きとなりました。心温まるご挨拶を聞きながら、ベット・ミドラーのヒット曲「The Rose」の一節を思い浮かべていました。歌詞の最後の部分をご紹介します。新成人へのプレゼントになるでしょうか？

寂しくて道が遠く感じるとき、愛は幸運な強者だけのものに思えるとき  
 思い出してください 冬、深い雪の下に眠っていたその種は、春、太陽  
 の愛を受けて、薔薇の花を咲かせるということを

(植竹)



記念品を贈呈



輝く新成人！！



家族、関係者が大勢集まりました

### 防災講座

2月15日に立川防災館にて防災講座が行われました。毎年恒例行事であり、講座を通して防災の意識を高めてもらうことが目的となります。

最初に消火訓練を受けました。実際に消火器の使い方を習い、五人一組となつて「火事だー!!」と叫び、スクリーンに映し出された火災映像を消化する訓練です。皆さん中々、声を出せず、消火器の使い方がわからずに焦る人も。実際に火事が起きた場合は冷静さを失い、パニックになつてしまふことはまず間違いありません。

続いて、AED(自動体外式除細動器)を使った応急救護措置講座となります。AEDの自動解説を聞きながら人形に心臓マッサージをするのですが、順序が少し複雑でありながら、二人一組で行うため連携プレーが必要とされます。中には猛烈な勢いで心臓マッサージする方もおり、講師の方から「それでは心臓がつぶれてしまいますよ!」と厳しいツツコミが。消火訓練同様に冷静さを保つことが重要だということが身にしみてわかり



冒頭に寮長から熱いメッセージが

ました。

次に日本の歴史上に起った地震を振り返るアニメを見た後、リビングを模した部屋で震度7を体験する地震体験室へと移りました。震度1からスタートし、皆一斉に机の下に隠れて体を守りますが、平然としていたのもつかの間、徐々に揺れのエネルギーが強まり、震度7に達すると「きゃーッ!」「うおーッ!」と悲鳴が聞こえました。訓練とわかつていながらも、心拍数は増し、机の脚にしがみつくことで精一杯。改めて、地震の怖さを知りました。(煙は水蒸気に香料を含ませたものなので危険性はありませぬのでご安心下さい)。

最後は煙体験教室です。家屋で火事が起きたことを想定し、煙が充満したうす暗い迷路をグループ毎に進むのですが、来た道に戻ってしまうグループもあれば、先頭からはぐれてしまう方も。私も作り物とわかっていながらもゴールが見えたときにはほっとしました。

全ての体験を終えた後に「すっごく疲れたけど勉強になった」と言う利用者さんといえば、「楽しかった。また来たい」と笑顔で話す方もいました。人それぞれ感じ方は違うにせよ、防災につながる何かを感じ取ってくれば幸いです。

東日本大震災からこの3月で4年が経過しますが、記憶やあの出来事を絶対に風化させてはいけません。1月に研修で宮城県の気仙沼と南三陸町を訪れ、所々復興は進んでいましたが、野にむき出しになった家の基礎や、防災庁舎を見て胸は痛み、その傷跡は未だにくっきりと残っています。

自分を含めた人の命を守るのは他でもなく自分自身です。立川防災館の皆様貴重な体験をありがとうございました。

(岩崎)



実際に AED を使った訓練



地震体験室では皆悲鳴をあげていました

### クラブ活動

今年度最後のクラブ活動を2月22日に行い、4名の利用者さんが参加しました。

今回はこの三種類のお花を使用しました。

- ①やなぎ
- ②ストック
- ③小菊

それぞれのカラーが出ていて素敵な仕上がりになりました。

お茶はクラブ活動常連の3名は点てる側を体験しています。

片付けまで皆できちんとこなし、気持ちよく今年度最後のクラブ活動を終えることができました。

次回は4月26日(日)です。

遠足に出掛ける事の多い4月ですが、今回は食堂で行います。

遠足は秋に予定していますので、楽しみにしてください!

女性の参加もお待ちしております。

(浅田)



確実にレベルアップしています



熱心に教えてくれる川添先生

### 性講座

2月26日、今年度3回目の性講座を実施しました。今回は講師の先生をお招きしての学習です。「小さな命を守る会」代表の辻岡健象先生です。手品や腹話術の飛び出すビックリ箱のような展開に利用者は一様にポカッ：「いや、ここは拍手が欲しいんだけどなあ」と先生も困惑？

そんな明るい雰囲気の中、先生からは命の大切さが語られました、性行為によって生まれる赤ちゃんはもとより、他人の命、そして自分の命もかけがえのない尊いものであることが繰り返し、強く訴えられました。

「面白いおじいちゃん！」と言っていた利用者もいつしか話に引き込まれて真剣に耳を傾けていました。この日の話をいつか思い出して、何かのブレーキになってくれたらと願ってやみません。

(山内)

### 調理実習

2月14日(土)に今年最後の調理実習を行いました。今回はキャンセルの人が多く最終人数は男性2人となりました。

一年間の腕の見せ所です！

メニューは・オムライス ・手羽煮 ・ゆで野菜 ・人参の甘煮  
 ・スープ ・チョコレートミックス：となります。

バレンタインでもある2月14日の特別メニューです。

オムライスはケチャップご飯を先に作りました。その後、ふわふわのを焼いてご飯の上にのせました。手羽煮は生姜、酢、砂糖を入れて甘い手羽煮が完成しました。味も120満点。とても美味しく出来上がりました。

人気のオムライスが作れなかったことを悔やむ利用者もいらしたのでまたメニューに入りたいと思っています。

次回は4月12日(日)に開催予定です。お楽しみに！

(大場)



腹話術に皆ビックリ！！



尊い命について学習しました



今回は男性二名が参加！



ボリュームのあるオムライス！

### お楽しみメニュー

毎年3月3日はおひな様メニューです。

例年のメニューはちらし寿司がほとんどでしたが、今年は以下の初登場のメニューが加わりました。

- ・ライスコロッケ三種類（ケチャップライス、ドライカレー、チーズピラフ）
- ・人参ポタージュ
- ・いんげんとエビのマヨネーズ和え
- ・三食ゼリー
- ・甘酒
- ・ひなあられ

盛りだくさんのメニューに調理スタッフ3名で対応し、ギリギリ18時30分に食堂開店。

初めて食べるライスコロッケが大変好評で、「ケチャップライスが一番好き」「ドライカレーも美味しい」との声があちらこちらから聞こえてきました。スープも好評で完食です。食べ終わった利用者さんからは「お腹いっぱい!!」「おいしかった!!」との声が聞けたので、嬉しい限りです。

次回は5月5日 子供の日です。乞うご期待！

(東田)



おひなさまメニュー



調理員の皆さん、いつもありがとう

### ソフトボール

2月28日、今年度最後の練習が実施されました。出勤などの事情から少人数でしたが、フリーバッティングなどに時間を割いて充実した内容でした。冬は雪が積もると溶けず、雨が降ると乾かずとグラウンドコンディションに悩まされますが、晴れた日でも思わぬ敵があります。それは霜柱。貼れた明け方の放射冷却で霜柱が立ち、それが溶けてぬかるむと午前中はグラウンドが使い物にならないのでがっかりさせられます。

都大会の案内が到着。新しいシーズンの足音が聞こえてきました。

(山内)

### 新任職員紹介

みなさま、こんにちは。動物(特に犬)と子どもと富士山が大好きな、中年(笑)です。専攻は初等教育で、今までは学習塾を営んでおりました。性格は少しラテン系が入っていると自他共に認めております。宜しくお願ひ申し上げます。

(田母神)



## フクシアから

「通勤寮だより」第1号は平成19年1月に発行されました。今回で50号を迎えたと聞き、あらためて月日の流れの速さに驚いています。

地域生活援助センター「フクシア」が開設したのは平成20年5月に運用開始し、その当時は同じビルの横ではスナックが営業されており、昼間からカラオケの歌声が聞こえ、お客さんへ提供する料理の匂いも漂っている状況が平成24年夏ごろまで続きました。

スナックが閉店して法人が借り上げ、平成24年12月にフクシアが拡張され現在に至っています。

拡張されたフクシアは会議室、相談室が配置され利用者さんとの相談がスムーズにできると共に、利用者さん自身も聞かれたくない話なども話せる空間ができたことは大変良かったと思います。

今後、毎年通勤寮卒業生を受け入れていくフクシアは規模としても大きくなっていく事は必至です。受け入れ側としても心を広く持ち、利用者さんの希望に叶う支援を行っていく事が必要と考えています。

(市川)

## 今後の予定

〈3月〉

・ 21日(土) 地域生活講座

〈4月〉

・ 5日(日) 入寮オリエンテーション

・ 12日(日) 調理実習

・ 26日(日) お茶・お花

\*5月の保護者会は10日(日)を予定しております。

## 編集後記

記念すべき50号いかがでしたでしょうか。第一号が発行された8年前私はまだ19歳でした。通勤寮で生活している利用者さんの年齢とほとんど変わりはありません。

自分自身や家族、友人などを含めた身の回りの状況や生活、環境などありとあらゆる変化が日常に現れ、時間が加速している錯覚すら覚えます。それに伴い、最近、よく考えることは「自分も歳をとっていくんだなあ」ということです。至極シンプルで当たり前のことですが、年齢を重ねると共に少しずつ変化や経験が増えていくと実感する毎日です。

暖かい春が訪れようとしています。どうか、ご自愛ください。

(岩崎)